



## 日本カトリック海外宣教者を支援する会

## 巻頭言

## アマゾン地域での宣教

イエスのカリタス修道女会 Sr 川 端 キヌエ

マチュピチュ遺跡、ナスカの地上絵などで有名なペルーは、地理的、文化的な多様性に富んだ国で、カトリックの信仰も篤い国です。1980年代、ペルーが、深刻な社会不安と経済危機に見舞われ、紛争と貧困で人々が苦難の中にいた頃、イエスのカリタス修道会は、1982年3月4日、4名の日本人の宣教女を派遣し、リマ市郊外のスラム街にカリタスの家を開きました。その後も貧しい地域で、イエスのみ心の愛の証人として、教会司牧、教育・福祉事業を通して、貧しい人々に寄り添い、愛の奉仕・宣教を行っています。

ペルー宣教30周年を迎えた頃、ウカヤリ県のプカルパ知牧区の司教様(サレジオ会士)から、アマゾン地域での宣教の招待を受けました。聖霊の照らしのもと識別を重ね、ついに、2013年9月27日、聖ヴィンセンシオの祝日に、日系ボリビア、韓国、ペルーの多国籍の3名の会員で、プカルパ修道院が開設されました。ペルー宣教に新しい生命、聖霊が吹き込まれたように感じました。入念な準備と覚悟で始めた新しい宣教でしたが、慣れない土地、気候、人々、風習に戸惑いながらも、創立者アントニオ・カヴォリ神父様から受け継いだ宣教への情熱を胸に、シスター達は、聖女ローザ教会での教会司牧に従事しながら、生活の糧を得るために、一

## ♥♥もくじ♥♥

巻頭言	1
第93回運営委員会議事録	2
宣教者からのお便り	8
こんにちは!お久しぶりです!!	12
ザ・メッセージ	12
ECHO	12
連載「海外宣教」	14
新しい支援者・事務局より	16



人は公立中学校の宗教教師、二人はカテドラルでのオルガン教室に取り組みました、修道院は、虫食いの古い木造の2階建てで、アマゾン地域特有のサウナのような気候の中、蚊の襲撃と熱帯夜に眠れない日々が続きました。アマゾン川支流のウカヤリ川から、時折吹く爽やかな風に慰められたそうです。徐々に、人々にも信頼され、交流を深めながら、カリタスの宣教の基盤を固めていきました。

数年後、司教様は、対岸の移住民の集落、アバンカイの住民から霊的同伴を願われ、シスター達にアバンカイの集落での司牧を託しました。20戸位の家族は、雨季の川の増水に備えた高床式住居に住み、集落の中心にある分校では、教師一人が、小学1年から6年までの40名位の生徒たちを教えていました。シスター達は、地域の必要と事情を把握し、子供達の栄養補給と家庭の信仰生活を支援するため、木造の巡回教会、子供食堂建築のプロジェクトを企画し、国内外の恩人達を探しました。そして住民と協働して、段階的に夢を実現させました。さらに、井戸を掘ってタンクを設置し、水不足を解消して生活の向上にも貢献しました。巡回教会では、日曜日にシスター達と聖女ローザ教会信徒が、み言葉の祭儀、洗礼や初聖体の秘跡のカテケーシスが行われ、人々の信仰生活の拠り所となっています。

人々は、不安定な日雇いで日々を過ごし、貧困のため、基本的な教育も受けられない子供が多いことを憂慮し、コロナが落ち着いた2021年から、少女たちの養成・教育を目的として、教会のサロンを利用して、小・中学生の10名位で女子寄宿舎を始めました。勉学だけでなく、基本的な教養や作法も身に着けるように支援しています。2023年9月、プカルパでの宣教10周年を感謝のうちに祝い、同年、12月に寄宿生の二人は、修道召命に導かれ、高校卒業後、志願者として本会に入会しました。これは、神様の祝福とシスター達の宣教の実りだと感謝しています。近年、日本人のシスターが共同体に加わり、4名で力を合わせ、過酷な気候、限界や困難と戦いながらも、神様のみ摂理に信頼して、信仰とカリタスの小道をプカルパの人々と共に歩み続けていくことを願っています。

## 第 93 回運営委員会議事録

日 時：2024年6月8日（土） 13:00～14:10

場 所：聖フランシスコ修道会 修道院2階教室

出 席：村上芳隆会長（O.F.M.）、伊藤厚志、片山恭子（新任）、S.桐野香（F.M.M.）、島上麻子、全相奎、諏訪なほみ、S.谷口美帆（S.C.G）中村文子、S.延江由美子（M.M.S.）、波多野真理子、S.日高和子（A.C.I.）、山田真知子（事務局）

### 議 事

#### I. 2023年度活動報告

（2023年4月1日～2024年3月31日）

所在地 東京都港区六本木4-2-39

委員 顧問司教：山野内倫昭司教（さいたま教区）

会 長：村上芳隆神父（フランシスコ会）

運営委員：伊藤厚志、Sr. 桐野香（マリアの宣教者フランシスコ修道会）、島上麻子、全 相奎、諏訪なほみ、谷口美帆（S.C.G.）、中村文子、Sr. 延江由美子（M.M.S.）、波多野真理子、Sr. 日高和子（聖心侍女修道会）、山田真知子

会議 運営委員会開催 2023年6月10日、9月9日、12月9日、2024年3月9日

## 諸活動

### 1) 広報活動

a. 宣教地からのレポートと国内会員の声などを掲載した広報誌「きずな」を年4回（6月、9月、12月、3月）発行し、国内支援者と海外で働く宣教者に送付し相互の交流と宣教者の現地活動を、日本の多くの方に伝えた。ホームページも定期的に更新。会員外にも広く活動を告知できた。

b. 海外宣教者のお話を聞く会

今年はカトリックメデイカルミッションシスターズのシスター延江由美子のお話し会を開催。9月12日

c. カトリック新聞に会の情報を掲載、新入会員を得ることができた。

### 2) 援助活動

- ・世界各地の宣教者から申請のあった援助について、資料を基にして実情や内容について運営委員会で検討し、緊急性や必要性の高いものから援助を決定し、実行。今年はやや援助申請が増えてきた。コロナが明けたとは言え申請の数は以前ほど戻っていない。

### 3) 宣教者への支援活動

- ・「きずな」は季刊で寄付された雑誌やカトリック新聞と共に世界150ヶ所に送付。
- ・12月にはクリスマスカードに一言を添えて宣教者全員にお送りした。  
今ネットの世界ではあるが、宣教者の方で「きずな」をネットで読む方はまだ多くない。日本の雑誌を手に出る方法もほとんどない。すぐ手に取って読めるのは、とても楽しみだとの感想が多かった。送られた「きずな」は日系年配の方々にも回覧されている。

### 4) その他

- ・「事務局訪問」本年度は宣教者と直接お会いすることはできなかったが電話やメールによる報告等で現地を知ることが出来た。また直接送られている会報「きずな」により他の宣教者の様子を知り、宣教地での交流も生まれ、さらには事務局や会員と繋がる事が出来た。
- ・今年も会員の皆様との交流はほぼできなかったが、「きずな」エコーでお伝えした会員からの一言をたくさん頂いた。宣教者と共に感謝したい。

新入会員 16名（個人会員） 入会件数 669件（個人、修道会、教区、教育関係他）

## 2023 年度 会計決算

### (1)入金の部

海外宣教者を支援する会

(金額単位: 円)

項目	2023年度予算額	2023年度決算額	摘要
会費寄付金入金	8,000,000	7,217,145	現金、振替口座、銀行振り込み合計
基金取崩し	0	0	
雑収入	0	178,924	欠席者交通費と海外便2重払い返金分
預け金利息	0	89	銀行利息
前年度剰余金	12,664,219	12,664,219	
合計	20,664,219	20,060,377	

### (2)出金の部

(金額単位: 円)

項目	2023年度予算額	2023年度決算額	摘要	
援助費	8,000,000	3,818,116	援助申請前年より増加	
研修費	50,000	25,000	お話し会謝礼とホール代	
基金繰入				
運営経費	広報	1,450,000	1168940	会報誌「きずな」作成年4回・広告費
	印刷費	300,000	413,050	封筒、宛名、コピー機リース代他
	通信費	1,450,000	1308639	「きずな」国内発送費含、電話代他
	事務用品費	20,000	17,505	コピー用紙、ラベル用紙他
	維持管理費	1,900,000	1,705,939	事務所維持費1人(アルバイト1人'23.8月まで)
	支払手数料	190,000	192,106	寄付振込手数料、送金手数料など
	交通費	130,000	149,920	発送ボランティア交通費、運営委員会交通費
	会議費	20,000	11,311	運営委員会部屋代2回分他
	雑費	30,000	18,593	お歳暮等
	備品	10,000	37,713	プリンター故障買い替え、PC関係ソフト代
予備費	10,000	203,840	帰天者の献花3件と海外発送2重支払い分	
小計	5,510,000	5,227,556		
当期支出合計	13,560,000	9,070,672		
次期剰余金	7,104,219	10,989,705		
合計	20,664,219	20,060,377		

## 2023 年度 援助費

2024年3月31日現在

	国	申請者/申請内容	申請額
1	グアテマラ	シスター眞神シゲ(ベリスメルセス宣教修道女会)より婦人の社会的地位向上を目的とした勉強会において識字教育、歴史、政治、健康、野菜づくり、選挙についての勉強。講師の謝礼。近くや遠くのスラムから参加するための交通費の援助	¥500,000
2	モンゴル	シスター小島華子(サレジアンシスターズ)よりゾーンモードにある青少年センターの校庭に子どもや地域の人々が使用できる5種類の運動器具の費用と設置費用合計。	\$ 1,530.00 (¥240,392)

3	シエラ・レオネ (アフリカ)	シスター白幡和子(御聖体の宣教クララ修道会)よりLunsarにある幼稚園の子供たちに学用品であるノートと鉛筆の援助申請3歳児→ノート1冊、4歳児・5歳児に2冊ずつ。全員のための鉛筆代合計	\$ 950 (¥139,000)
4	東ティモール	シスター荒井祥恵(援助マリア修道会)よりアタウロ島レストナック社会教育センターの子供たちの学校消耗品70名、40人の子供3食3か月分、教材、サッカーのボール等。	\$ 12000.00 (¥1,832,600)
5	東ティモール	シスター中村葉子(聖心侍女修道会)より修道院で学ぶ幼稚園児と小学生196名の給食費1年分を栄養状態向上のための費用として他団体から受けていたものが援助打ち切りとなったため食費総額の一部を援助申請	\$ 2000.00 (¥316,060)
6	国内	「きずな」、カトリック雑誌(寄付品を含む)クリスマスカード、カトリック新聞、「こじか」などを送付	¥790,064
合計			¥3,818,116

1ドル=時期により変化

## 2023年度 貸借対照表

2024年3月31日現在  
(金銭単位 円)

資産の部		負債及び剰余金の部	
郵便局振替貯金	217,987	期末剰余金	10,989,705
みずほ銀行高田馬場支店	10,509,967		
現金(円)	261,751		
合計	10,989,705	合計	10,989,705

( \$ 現金を190.00保有)

### 援助基金内訳

金融機関名	金額単位(円)	金額単位(\$)
ゆうちょ銀行	9,797,981	
三菱東京UFJ銀行	4,326,932	
みずほ銀行(外貨\$預金)	290	2.16
合計	14,125,203	3,441.61

\$1=¥134.54

### 援助基金推移詳細

ゆうちょ銀行	前年度繰り越し	9,797,940	
	利息	41	
	小計	9,797,981	
三菱UFJ銀行	前年度繰り越し	4,326,896	
	寄付	0	
	利息	36	
	経常勘定へ	0	
	小計	4,326,932	
みずほ銀行外貨\$預金	前年度繰り越し	290	2.16
	出金	0	0.00
	利息	0	0.00
	小計	290	2.16
合計		14,125,203	

\* \$ = 134.54

## II. 2023 年度決算報告

### 2023 年度 会計監査報告

23 年度会計報告を監査したところ適正であることを認めました。

2024 年 5 月 14 日

監査役 桐野 香 

2024 年 5 月 14 日監査役 S. 桐野 香（マリアの宣教師フランシスコ修道会）により終了  
次期監査役は未決定

## III. 2024 年度活動計画・予算審議

所在地 〒 106-0032 東京都港区六本木 4-2-39 フランシスコ会聖ヨゼフ修道院内

委員 顧問司教：山野内 倫昭（さいたま教区司教：サレジオ会）

会 長：村上 芳隆（フランシスコ会）

運営委員：伊藤厚志、桐野 香（マリアの宣教師フランシスコ修道会）、島上麻子、

全 相奎、諏訪なほみ、谷口美帆（イエスのカリタス修道女会）、中村文子、

延江由美子（メディカル・ミッション・シスターズ）、波多野真理子、

日高和子（聖心侍女修道会）、片山恭子、山田真知子

会 議 運営委員会 年 4 回開催（6 月、9 月、12 月、2025 年 3 月）

### 諸活動

1. 広報他  「きずな」を年 4 回作成・発行 2900 部
  - ホームページによる広報活動
  - カトリック新聞に会の広告掲載
2. 援助  運営委員会で受け付けた援助申請を審議の上実行する
  - 宣教師へ「きずな」、新聞、ご寄付のカトリック雑誌などを送付
  - 本年度は宣教師名簿を全ヶ所に送付
  - 宣教師全員へクリスマスカードを送付
3. 講演会・勉強会
  - 国内で宣教師のお話を聞く会か勉強会等を秋ごろ開催予定。
4. その他  帰国・一時帰国された宣教師と事務所で面会か電話インタビュー
  - 報告書や写真、原稿を依頼
  - 宣教師名簿の作成
  - HP の更新
  - 事務所から「きずな」その他の発送活動

## 2024年度会計予算表

### (1)入金の部

(金額単位：円)

項目	2023年度決算額	2024年度予算額	摘要
会費寄付金入金	7,217,145	8,000,000	
基金取崩し	0	0	
雑収入	178,924	0	
預け金利息	89	0	
前年度剰余金	12,664,219	10,989,705	
合計	20,060,377	18,989,705	

### (2)出金の部

(金額単位：円)

項目	2023年度決算額	2024年度予算額	摘要	
援助費	3,818,116	6,500,000	コロナ明けで活動が少し活発に	
研修費	25,000	50,000	お話し会講師交通費、謝礼など	
基金繰入				
運営経費	広報	1,168,940	1200000	「きずな」4回発行・広告掲載など値上げ
	印刷費	413,050	450000	封筒・宛名印刷・コピー機・「名簿」値上げ
	通信費	1,308,639	1350000	「きずな」国内発送値上げ・電話・郵便・サーバー費
	事務用品費	17,505	18000	ラベル・コピー用紙他
	維持管理費	1,705,939	1675000	事務所賃料・人件費1名・電気負担額・PC周辺維持
	支払手数料	192,106	200000	振込・送金手数料
	交通費	149,920	150000	事務所1名、ボランティア、運営委員交通費
	会議費	11,311	20000	運営委員会年4回会議室使用献金
	雑費	18,593	20000	弔慰金・謝礼他
	備品	37,713	225000	パソコン1台交換、ソフトや外付けハードディスク
	予備費	203,840	30000	
小計	5,227,556	5,338,000		
当期支出合計	9,070,672	11,888,000		
次期剰余金	10,989,705	7,101,705		
合計	20,060,377	18,989,705		

.....上記書類は拍手をもって全て承認された。

#### IV. 「きずな」167号について

編集者から→巻頭言は鹿児島教区の中野裕明司教にお願いした。

#### V. 「きずな」168号について

- ・168号巻頭言：シスター川端 キヌエ（イエスのカリタス修道女会）ペルー管区長にお願いします。
- ・今年度お話し会について：今の所、シスター荒井 祥恵（聖マリア修道女会）東チモール10月26日（土）フランススコ会ホールで開催決定。時間未定。詳細は次回のきずなでお知らせする。

#### VI. 援助申請

◎南スーダン Sr.下崎 優子（イエスのカリタス修道女会）より

- ① 食糧支援：トウモロコシの粉 10 k g ( \$ 6 ) 330 人 x \$ 6 x 4 回分 = 7,920.00  
9,10,12, 1 月の 4 回分祝日のため ( 国からの援助を受けられない信徒難民へ ) \$ 7,920.00  
国内難民 8,000 人が教会敷地にテントで在住 ( 内戦、天災のため )
- ② 安全のため：コンクリート塀建設のため、資金の一部 ( 1 千万円の内 ) 現在貯めている途中。  
\$ 1,000.00      ①, ②合計 \$ 8,920.00.....すべて承認された。

## VII. その他

- ・ 近年帰天された支援する会の前事務局長、運営委員合計 6 名の為、6 月 8 日 11 時から追悼ミサを捧げた。  
フランシスコ会小聖堂にて、会長村上芳隆神父 ( O.F.M. ) 前々会長中谷 功神父 ( O.F.M. ) 共同司式
- ・ 発送：「きずな」業者発送 2,739 通
- ・ 事務所「きずな」発送：ボランティア 3 人で海外便 95 通      国内大口など 51 通発送
- ・ 事務所夏休み：8 月 9 日～ 16 日まで
- ・ 事務局訪問も増えてきた。
  - ・ 次回運営委員会      9 月 14 日 13 時



# 宣教者からのお便り



インド

◆ナガランド◆

## インド通信 23 その 3 10 月 19 日

メディカル・ミッション・シスターズ 延 江 由美子

先週ついにアルナチャル・プラデシュ州に「到達」しました！現地に住む人々にとってもアルナチャルはどこか秘境というイメージがあるようで、少なからずの人が「いつか行ってみたい」と思う地です。チベットの南に位置しており、中国との国境線はまだ定かになっていません。多くの人たちはモンゴロイドに属する先住民族なので見慣れたナガの人々と区別がつきにくいですが、ここにもまた異なる文化があります。アルナチャルについて私はほとんど何の知識もないまま今回の旅に参加したのですが、お世話

になったニシ ( Nyishi ) 族の家族と、同行したナガの人たちの日常生活をほんの少し垣間見させていただきました。

旅の目的は州都イタナガルで 15 日に行われた司教の叙階式。司教はローマ法王 ( 今の法王は数年前に来日した教皇フランシスコ ) から任命されるカトリック教会という教区の指導者ですから、その叙階式ともなれば、神父の叙階式や修道女の誓願式とは比べものにならないほど大層特別で厳かな儀式です。しかも新しく任命された司教は、ナガランド州のコヒマ教区で 37 年間司牧してきた ( といってもまだ 53 歳 ) ので、私たちにとっては大変身近で親しみを感じる存在。ナガランドからは多くの神父やシスターや信者さんが 500 人近くが参列しました。この方の出身地、南インドのケララ州からも

50人くらいの家族、親戚が遠路はるばるやって来て、参加者は総勢14,000人にのぼったそうです。



出発前の朝ごはん



新司教とシスターたち

ボランティアの若者たちは素朴で精一杯愛嬌を振りまき、私たちが英語で出迎えてくれました。でもアルナチャルでは共通語としてヒンディー語がよく使われるので、ミサはヒンディー語で捧げられました。歌も全部ヒンディー語。伝統衣装を纏った若い女性達が、今ふうのヒンディー音楽に合わせて踊りながら神父と司教の入堂行列を導くのは意外でしたし、ナガランドで聴きなれた綺麗なハーモニーがないかわりに陽気でシンプルなリズム感のあるヒンディー語の曲もそれなりによかったです。

さて、アルナチャルへ入城するには、インド人（北東部のアルナチャル以外の州に住む先住民族も含む）と外国人は皆、Inner Line

Permit (ILP) という許可が必要です。私のもシスターたちと一緒にオンラインで申請されるはずでしたが、いざ蓋を開けてみると外国人はオンラインでは申請できず、しかも2人以上でなければいけないことが判明。慌てて手当たり次第聞いて回ったものの埒があきません。もしかしてもしかする。。？と手応えを感じたツテも、最後になって10,000ルピー(!!)を払うなら、とのこと。仕方ない、諦めようと思った矢先、我がゴッドフリー神父さんから「IDが取れたから明朝6時半に迎えに行くよ」との朗報が入りました。「でもID？ILPじゃないの…？なんだかよくわかんないけど…？」とにかく行けることになりました。直ちにシスター達との夜行列車をキャンセルし、私だけ一日早く神父さん含む6人グループの車での旅に加わったのでした。

当日。ディマプールに住む同行者のお家でガッツリとナガ式朝ご飯をいただいてから出発。Google Mapを頼りにすぐにアッサム州に入り、素晴らしく舗装された平たいまっすぐな道をグングン走ります。途中、一角犀が多く住むというカジランガ国立公園と一面に広がる茶畑を通過。そこには透明な空気が満ちていて、茶摘みを終えたアディバシ女性の佇まいの美しさに思わず身を乗り出していました。そのあたりでお昼のお弁当。まるで大人の遠足です。

こちらもずいぶんと日が短くなり、あっという間に暗くなりました。高速といえどまだ完成していないのでライトはほとんどないし、道路の端をいく人も自転車もライトをつけていないし、おまけに対向車がどこを走っているのかすらわからないところもあって、危なっかしいっ

たらありませんでした。そんなこんなで気がつけば、しょぼいアルナチャルのチェックポイントを難なく通り抜け入域しました。同乗したナガの人たちにとっても、ILPを取得してアルナチャルに行くことは一生に一度くらいの出来事らしく、目的地に着くまでILPをチェックされるかどうかかなりナーバスになっていました。けれど結局、何にもありませんでした。な～んにも。

帰路で分かったのですが、ゴッドフリー神父さんはILPを申請したけれど受理していなかったそうです。はたして今回無事に済んだのが例外だったのかは分かりません。

◆チャド ◆ライ◆

## 天候異変はチャドも例外なく

シヨファイユの幼きイエズス修道会 平 静 江

チャドは昨年、天候が悪かったので、コメの収穫が少なく品不足と物価高になり、生活が苦しくなっています。今年も雨季に入りました。雨の降り始めは私の出発の前日に本格的な雨が降りました。地球の天候異変がチャドも例外ではありません。

6月9日に休暇帰国しました。日本は涼しいし、食べ物もおいしい、すべてがOKですね。今年のチャドは異常な暑さで、流石の私もバテ気味でした。マンゴーのジェラートが食卓に出ると姉妹と生き返るねと言っていました。

気にかかっていたガールスカウトの援助の報告書を送ります。どうぞ宜しくお願い致します。雨季に入りました。

◆タイ ◆バンコク◆

## タイの山村から東京に戻って気づいたことそのⅡ

聖パウロ女子修道会 阿 部 羊 子

タイ国での宣教の任務を終え東京乃木坂の修道院に帰りました。日本での福音宣教再開です。

早速「お帰りなさい！長きにわたるタイでの宣教お疲れ様でした。日本は宣教においても司牧においてもある意味で上級者コースですので難しいことも多いでしょうが、聖霊の導きのもとでシスターの新たなミッションのためにお祈りします」との言葉をいただき新たな気持ちで日本での生活に臨んでいます。祈りの声援に支えられ霊の激励ナビに信頼し導かれて励む覚悟です。30余年の空白を埋める順応の日々、結構、新鮮で楽しんでいます。日曜日はできるだけ教会巡りを、道順を覚え複雑な交通網を少しでも自在に利用できるようにし、信徒との触れ合い、教会生活に親しむように努めています。

整然とした東京とバンコクとの差は大きい。発展途上の若々しい意気込みと元気には負けませんが、東京には緑の空間もここかしこにあり、「空気も空も澄んでいるなあ」と感じます。それと諸外国からの人々、特に同アジアの仲間の多さ、道案内を請うにも確かめてからでないとは度々空振りです。どこも同じ都会の風景の中でほとんどスマホのお世話になりっぱなし。バンコクでの日々の車内の様子が東京でも……何とも言えない気持ちです。

日本に帰る前に、タイの山岳の村に日本の仲間とホームステイをしました。電波の届かないソーラー電気を使っている村で「スマホバイバ

イ」の生活。顔と顔を合わせしっかり見つめ合って全身で語り合う醍醐味に、都会での「心ここにあらず」の在り方、スマホ依存の生き方に気づく機会になりました。「この体験を生かし解放された自由な生き方を工夫しよう」とみんなで語り合って山を下りました。

ある日、車内で目の前に座っている四歳ぐらいの男の子がスマホに夢中の母親に「ねえねえ」と話しかけている光景に出会いました。母親は子供の手を振り払い、「邪魔しないで」という仕草を繰り返す、男の子は立ち上がり、歌いながら踊り始めたのです。それがとても可愛らしく車中の客は皆なニコニコ顔で子供に注目しました。それで、とうとう母親も笑いながら子供に目を向けたのです。

わが身を振り返って自分も知らず知らずにスマホに頼り肝心なことへの集中力が弱くなってきていると自戒しています。スマホをスマートに利用する知恵を身に付け、AI時代にあっても成熟した感性と温もりを魂に漲らせて生きたいと思います。

グアテマラ ◆コロンバ◆

## 久しぶりに日本に戻って

ベリス・メルセス宣教修道女会 眞神シゲ

2024年8月1日 朝6時10分 成田国際空港に着きました。メルセス会の眞神シゲです。今回、グアテマラ→メキシコ経由で日本に着きました。懐かしい日本、嬉しい到着です。日本について一言ということで、申し上げますと暑いですね。ベタつくこの暑さは、まさしく日本で

す。久しぶりのベタつく暑さに負けそうです。めげずに事務所訪問を8月20日に計画しています。10年の長きにわたってお世話になったお礼を申し上げます。

自然が柔らかく美しいです。赤い花の百日紅、白い花の百日紅。皮のむけたような百日紅の木がツンと伸びて、緑の葉、柔らかい赤色の花のかたまり、そして、次は白い花の百日紅の木と続く成田からの高速道でした。空港内では、表示案内が続き、バス停では、時間になると係員が現れ、切符の手渡し手続きが目の合図で行われ、ピッタリ定刻にやって来るバス、荷物の積み込み、乗車、音もなく発車するバス。清潔、秩序正しい、沈黙の国に来た感覚でした。私の周りは皆ロボットか？こんな印象です。修道院では、冷たい素麺を頂いて、満足マンゾクの眞神です。

チャド ◆ライ◆

## 葬儀ミサに合わせて祈りを共に

シヨファイユの幼きイエズス修道会 松山浩子

私の母が6月17日に帰天しました。今日、6月20日午前10時に、熊本のカトリック武蔵ヶ丘教会で葬儀ミサが捧げられました。

私は、シスター平が休暇中なので、ナザレト・ベタニア女子寮の学生さんが中・高・大学に入る為の国家試験を受けるので、ご父兄との連絡、6月末には司祭叙階式もあるのです。今、黙想にも参加して、母の日本での葬儀ミサに合わせて祈りを共にしていただきました。

きずなでお世話になった井上信一様・八幡と



◇「きずな」をありがとうございました。

(神奈川県 松岡 詔子)

◇馬目さたシスターは2023年12月帰天、長年愛読させていただき有難うございました。

(神奈川県藤沢市 ナザレト修道院)

◇毎日皆さんのためにお祈りしています。

(東京都 佐藤 操子)

◇不安定な政治、異常気象など大変な中での働き、感謝しかありません。祈っています。

(埼玉県 長山 好子)

◇召命減少と高齢化の中多くの方の尊い犠牲の上に行われているこの活動が、主の恵みと祝福のうちに100倍の実を結びますように。私たちも祈りとささやかな犠牲において皆様の活動に参加させて頂いております。

(栃木県那須町 那須トラピスト修道院)

◇現地の人々、宣教者のみな様、それぞれの悲しみの中へ主イエスが近づいて、そばにいて下さることを私たちは祈ります。

(福岡県 森 由理)

◇暑くなって参りました。みなさまどうぞお体たいせつになさってください。神さまのお恵みが豊かにありますように。

(東京都 匿名希望)

◇「きずな」167号拝読しました。感謝と祈りを福音宣教に勤む方々、お一人お一人の愛徳の実践に身の引き締まる思いで心から豊かな祝福をお祈り致します (神奈川県 匿名希望)

◇厳しい状況の中で宣教なさっている方々のため、祈りを込めて、少額ですがご活用ください。

(東京都調布市 サレジアン・シスターズ  
マンママルゲリータ修道院)

◇主の平和、神のみ心が行われますようお祈り致します。 (東京都 飯田 恵美子)

◇St. Paulのお祝いおめでとうございます。

(東京都 Sr. Yoko ABE,  
かい さやか、平野 実穂)

◇主の平和が世界中に広がりますように、お祈りしています。 (東京都 高山 協子)

## 『宣教者のお話を聞く会』

日時:2024年10月26日(土) 13時~15時

話し手:シスター荒井 祥恵(聖マリア修道女会)

場所:フランススコ会1階ホール(六本木)

主催:日本カトリック海外宣教者を支援する会

「東ティモールのアタウロ島にあるレストナック社会教育センター、子ども達への支援について」



## ブラジル訪問の思い出

ロンドリーナ（1986年）、ブラジリア（2009年）、サンパウロ（2023年）

マリオ 山野内 倫 昭 さいたま教区司教

わたしが初めてブラジルを訪れたのは1986年7月、レオナルド松尾神父様の招きで、ロンドリーナで開かれた日系ブラジル人司牧（PANIB）の交流会でした。そのときのテーマは、「聖書と大地」だったことを覚えています。

このテーマを選んだ理由は、ブラジル政府が国際協力機構（JICA）と契約して、山の木々や灌木を伐採し、大豆やトウモロコシを栽培するための広大な土地を開墾したものの、そのためには、そうした土地に住む多くの貧しい家族は移住しなければならない、ということでした。男女の宣教師たちはこれらの家族の叫びに耳を傾け、ブラジルで社会司牧を担当する司教とともに、このような差し迫った状況を前にして、自分たちに何ができるのか、どのように行動すべきなのかを識別するために集まり、とりわけ日系人である彼らは、JICAのとった姿勢に対してより大きな責任を感じていたのです。

旧約聖書にある、先祖から受け継いだ土地に関する場面を読むことを通して、ブラジルの大地に神から遣わされているわたしたちは、土地を追放されようとしている家族の側に立つ責任をもって、互いに団結し、より献身的にこの試練に立ち向かうべきことを、より強く意識するようになりました。

交流会2日目のミサで、わたしたちが皆、十字架につけられたイエスの前に素足で行き、人々のより近くへ寄り添うことを欠いていたことへのゆるしを願い、勇気、「パレーシア（危険を冒してでも公益のために真理を語ること）」を求めたことを覚えています。わたしたちが引き受けなければならない責任は、決して容易なものではなかったからです。

だからこそ、ミサのあと、イエスのからだをいただいて、イエスの復活の力によってわたしたちは、何よりもこれらの家族との友愛に満ちた連帯のあかし人となるよう駆り立てられている、と感じたのです。

ミサを司式した司教は説教の中で、わたしたちもまた、イエスとともに立ち上がり、政府が自分の土地から追い出さないよう、わたしたちの支援を求めているこの兄弟姉妹たちと、ともに歩むことは可能だと訴えました。そしてミサの終わりに、もっとも弱い立場にある人々の権利を守ったために、暗殺者によって殺された司祭や信徒の写真数枚を掲げて、短い行列を行いました。この交流会の参加者は、男女宣教師、男女信徒、司祭、修道女など約80人でした。ブラジルにいる日本人の兄弟姉妹が実践している解放の神学に実際に出会ったのは、これが初

めてでした。日系の宣教者の兄弟姉妹にとっても感心したものでした。

それから、ずいぶん年月が経った2009年8月、わたしは再びブラジルを訪れました。今度はブラジリア・カトリック大学に行って、東京・杉並のサレジオ高専に属する、「サレジオ・センター」内に分室を開設した、教育学大学院のオンラインコースの運営者と面会するためでした。それは新奇性のあるもので、学生たちの成長を感じさせられました。

しかし、わたしがさいたま教区の司教になって（2018年9月）以来、このセンターとの連絡はとらなくなっています。対面式のコースもあり、卒業パーティーは、この学校が設置されている下井草のサレジオ修道会の教会でミサがささげられたりしていますが、オンラインでのコースは、これからも続けてほしいと願っています。

3度目の訪問は、昨年11月、サンパウロの聖カルロ・ボロメオ宣教会（通称スカラブリニ宣教会）の国際神学院での、2日半の交流会でした。総長のレオニール・チアレロ神父様から、彼ら宣教会の宣教師たちが現在働いている、難民・移住者・海の民（ステラ・マリス）委員会の責任者である司教たち全員が招待されたものでした。そこは、10人ほどの司教と、その他多くのカリタス代表の司祭たちでした。参加者はフィリピン、オーストラリア、日本、イタリアなど、欧州、アフリカ、アメリカの各国から集まりました。今日の世界の大きな課題は、何よりもまず、2億人以上の人々が移住している人類の現状と、食料、衣料、機械、車両、燃料などを運んで海を渡り、国や大陸を結ぶ何十万隻もの船で働く人々の現状を認識することです。わたしたちはまた、海で働く人々のために祈り、彼らの無私で懸命な働きに感謝しています。

そして最後に、スカラブリニ宣教会のために祈りましょう。彼らは今年、総会において、預言者的勇気をもって宣教を立て直すために、人間の移動という課題について研究するのです。ここ日本においても、スカラブリニ宣教会はその活動を続けており、とくにさいたま教区では、2人の宣教師がわたしたちとともに働いています。

この『きずな』のグループを支えてくださるすべての方々に感謝します。いつもわたしたちのそばにいてくださり、宣教のために連帯する、友愛に満ちた助けを与えてくださる皆さまに、主の祝福がありますように。



## 新しい支援者

個人会員 4名

酒井 三貴子（東京都港区） 加藤 和見（愛知県名古屋市） 平野 美穂（東京都中央区）  
ウジ ジュンコ

### 事務局より

- ◎世界から戦争がなくなる日はいつ？と考えてしまいます。
- ◎今年の猛暑は場所を選ばず被災者やボランティアの皆さんをも苦しめていると思います。地震や、河川氾濫の災害に遭われた方々が早く復興できますように。
- ◎2023年度の決算のお知らせを載せております。全体的にややご寄付は減る傾向にありますが、援助申請も少しずつ増加しております。いっそうのご協力をお願い致します。
- ◎切手やはがきなどをご寄付して下さる方々に、この場を借りて御礼申し上げます。通信費として十分に活用しております。これからも宜しくお願い致します。
- ◎関東圏の方々 10月26日13時より東京、六本木フランススコ会聖ヨゼフ修道院ホールにて「宣教者のお話を聞く会」を開催致します。話し手はシスター荒井祥恵（聖マリア修道女会）です。東チモール宣教について。約1時間半。
- ◎事務所は毎週火曜日、金曜日10時～16時までです。宜しくお願い致します。

### 編集後記

◇日本の街中では、マスクを付けている方はほぼいなくなりました。さらに地方では全く見かけません。しかし、医療施設や福祉施設では、感染者がみられマスクは必須です。また、地震、台風そして線状降水帯など、新たな災害が次々と発生しています。そうした災害が発生した際に、しっかりと受け止め、どう行動したら良いかを祈りによって問い掛けをしながら過ごしていけたら良いと思います。 (い)

### 発行：日本カトリック海外宣教者を支援する会

〒106-0032 東京都港区六本木4-2-39

Tel. 03-5770-8753 Fax. 03-5770-8754

e-mail kaigai-senkyo@cronos.ocn.ne.jp URL <http://www.kaigai-senkyo.jp>

- ・銀行振替口座 みずほ銀行高田馬場支店 普通 2084112  
日本カトリック海外宣教者を支援する会
- ・郵便振替口座 00140-5-67881 海外宣教者を支援する会